

夏は暑いものと決まっていますが、今年の暑さは半端じゃないと感じているのは私だけでしょうか？暑い夏は人も機械も調子を崩しがちになります。人の場合、食欲が落ちたり・頭やお腹が痛くなったり自覚症状がでます。機械の場合も予兆があり、大半は運転席内のメーターパネルに表示されるようになっていきます。今回は**事故や高額修理や作動不能**に繋がる故障の予兆を知らせてくれるメーターパネルについてお話ししたいと思います。そんな事は十分承知しているとバカにせず再度確認しましょう。

## メーターパネルの話

高額になる修理を防止するには、定期メンテナンスを確実に行う事もありますが、故障の初期症状時に修理する事も大事なポイントといえます。初期症状が主に現れる場所としてメーターパネルがあります。

下の写真はタノ製GR250N型ラフテラックのメーターパネルです。



**エア圧力計** エアタンク内のエア圧力を表示しているメーターです。エア圧力が低下するとブレーキ力が低下します。規定圧以下になると**集中警告表示ランプ**にエア低圧警報が点灯しブザーが鳴ります。車を安全な場所に止め、シフトレバーをN位置にしエンジン回転を上げてエアを補給してください。警報が消えなかったり、エア圧が上がらなかった場合修理が必要です。



**エンジン水温計** エンジンの冷却水の温度を表示したものです。指針がレッドゾーンに入った場合エンジンオーバーヒートの恐れがあります。車を安全な場所に止めエンジンをアイドリング運転させ水温を下げてください。エンジンをオーバーヒートさせエンジンが停止した場合、大半ピストンやピストンライナーが損傷しています。高額修理に繋がりますので是非エンジン水温計に注意され運転することをお願いします。

**トルクコンバーター油圧計** クラッチの圧力を表示したものです。圧力が不足したまま運転するとクラッチが滑りトランスミッションやトルクコンバーター内部クラッチが損傷します。規定圧以下になると**集中警告表示ランプ**に警報が点灯します。国際サービスに修理依頼してください。エンジンの回転で圧力は変化しますが、通常圧力は10kg/cm<sup>2</sup> ~ 25kg/cm<sup>2</sup>です。

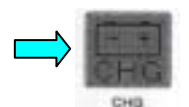


**エンジン油圧警告 集中警告表示ランプ**にエンジンオイル圧力が規定圧より低下すると警報が表示されます。主な要因はオイル不足です。油量を点検し異状がなければ、国際サービスに修理依頼してください。最悪の場合エンジンが焼付く可能性があります。



**バッテリー充電系異常・CHG** エンジンを始動して消灯すれば正常です。

バッテリーに充電されていないと、**集中警告表示ランプ**に警報が表示されます。最近の機械は電気で制御している為走行出来なくなったり、クレーン等の操作が不能になる場合があり、エンジンの始動も出来なくなります。主な原因はオルタネーター(発電機)の不良 ファンベルトの緩み・折損 充電ラインのヒューズの不良などがあります。



**エンジンオーバーラン** 長い下り坂などスピードを緩めず走行すると、エンジン回転が危険回転域に入りエンジンが破損する現象で、これも高額修理になります。エンジンがオーバーランになると**集中警告表示ランプ**に警報が点灯します。走行速度を下げてください。



**状態表示ランプ及び警告ランプ** ここに表示されるランプ類は排気ブレーキリヤステロック等の状態を表示するものとブレーキ警告ランプがあります。ここで特に注意が必要なのは**ブレーキ警告ランプ**で走行ブレーキのリザーバタンクのブレーキオイルが不足した時点灯します。ブレーキオイルが不足する要因としてブレーキパッド残量の減少及びブレーキオイルの洩れが考えられます。いずれも重大事故に繋がる事ですので、警告ランプが点灯したら国際サービスに点検依頼をしてください。

今ブレーキホース油洩れの故障が多発していますので、ご注意ください。



ここに紹介したメーターパネルはタノ製GR250N型のものですが、他メーカーや機種が違っても同様な警告灯やメーターが装備されています。この際ですから、もう一度自分のお乗りになっている車の取扱い説明書を読み返してはいかがでしょうか？新しい発見があるかもしれません。

車を運転している際メーターパネルの表示にも注意する事が肝心です。

以上 ご不明な点、分からない事がありましたら国際サービスにご相談ください。